北のわらしべ

《秋号》 令和３年９月30日発行

発行元：社会福祉法人わらしべ会(北海道)
連絡先；〒065-0043
札幌市東区苗穂町３丁目2-35
℡　011-776-7981［法人本部］

令和３年度も後期になります

理事長　川本明良

令和３年度もいよいよ10月です。昨年度同様、本年度前期もコロナ感染の影響から、社会生活や行動の制限が続き、社会全体が日常的なストレスの中で暮らさざるを得ない状況です。障害福祉サービスを実施する施設・事業所でのコロナ感染クラスターの発生が度々、報道されています。福祉施設・事業所では感染に不安を感じる緊張状態が１年半以上も続いています。これまでわらしべ会（北海道）の利用者さん・職員にコロナ感染患者は発生していませんが、まだまだ安心できる状況にないことから、冬期にむけて注意を高める必要があります。今後も利用者の皆さんや職員の安全の為に感染防止対策などを継続する必要があり感染予防に努めます。

一方で北海道でも新規感染者の減少が顕著になリはじめ、緊急事態宣言が終了されることになりました。この様な複雑な環境の中、今後の第６波の感染者拡大を危惧する意見と平行して「ウイズコロナ」や「ポストコロナ」の時代について語られることが増えてきました。先日、哲学者*マルクス・ガブリエル氏の「コロナ後の世界について」の動画が報道ステーションで取り上げられ、話題になりました。「コロナ前の状態に戻りたいと考えることは間違い」「経済活動による富の再分配は倫理的基準をもとに行われるべき」との彼の主張について、様々な反響が伝えられています。「本当にそのようなことが？」とも感じますが、コロナ禍の閉塞感を打ち破り、ポストコロナ社会構築ためには、単にコロナ感染の収束を目指すのではなく新しい社会の仕組みづくりはもとより、人の繋がりを基本とした個々の意識や感覚の成熟が求められているのかも知れません。

コロナ禍で開催による感染の拡大が心配され、開催賛否の意見が渦巻いた東京オリンピック・パラリンピックが終了しました。観客のいない会場がテレビで映し出され、寂しさや違和感を感じた人が多いようです。また、私たち札幌市民はせっかくの札幌開催マラソン競技の応援見学ができなかったことを残念に思っています。それでも利用者さんと日本人選手を応援している間は、コロナ禍の不安が少し和んだようにも感じます。テレビ観戦の翌日は、利用者さんと日本人のメダル獲得や活躍について話しをしました。記憶障害のある利用者さんが選手の名前や獲得したメダルについて覚えていたり、言葉数の少ない方が思いがけない過去の競技について語られる様子に触れ、日常みることができないご様子に競技と同じくらい感動しました。

またパラリンピック自転車競技で、金メダルを獲得した杉浦佳子氏は最高齢の受賞について感想を求められた際に「最年少記録は２度とつくれないが、最年長記録は更新できる」という旨の発言をしたそうです。事故で麻痺や高次脳機能障害のある彼女がリハビリに取り組み、パラリンピックでの金メダルを獲得するまでの努力や精神力は、多くの人に勇気を与えてくれたと感じます。彼女の発言はすべてのことに通じるとても良い言葉だなと感じました。

今年もわらしべ会の秋、恒例のカボチャの収穫をコロナ感染予防の観点から 2−3 人の小人数で実施しています。今年のカボチャの出来はどんな具合か？乾燥・熟成させた冬至カボチャがとても楽しみです。

*マルクス・ガブリエル；ドイツの哲学者、著書「なぜ世界は存在しないのか」が世界でベストセラーとなった。
（著書７頁紹介）

「２０２１年 人と熊との共生？」

インパクトのある映像がニュースで流れました。熊が人を襲い、町の中を走り抜ける様子が伝えられたのです。熊が増えているのでしょうか、農作物や家畜の被害が日常的になり、札幌から大滝・浦河への道々でも「熊出没注意」の看板を見かけます。実は熊が発見された札幌東区のショッピングセンターはわらしべ会のグループホームから遠くない場所にあります。「こんな町の中に熊が出るのか」というのが正直な感想です。熊との共生という専門家のお話もありましたが、本当に可能なのでしょうか。危機管理の一つとして「熊対策マニュアル」が必要になるかも？と冗談で話していますが、そうならないことを願っています。複数の方からご心配の電話やメールを頂戴しました、ありがとうございました。

大滝だより

大滝わらしべ園
〒052-0313
伊達市大滝区大成町１０
℡　0142-68-6344
FAX 0142-68-6345
Mail　waras@ootaki.tv

大滝わらしべ園の夏

（プール気持ちいい！）

（何が流れてくるかな？）

（すごい勢い！！）

例年、帰省や日帰り旅行など利用者様が楽しみにしている行事が、たくさんある夏の季節です。残念ながら今年はコロナウイルス感染予防を優先させて、これらの行事を全て見送ることにしました。しかし「何もしないまま夏が終わるのは寂しい!」と職員が相談し“プール遊び”“流しそうめん”“花火鑑賞会”を企画しました。[プール遊び]職員が施設の外でビニールプールの用意をしているのを見たプール遊びが好きの利用者様は嬉しそうに、そわそわし始め、準備完了後、外に出ると歓声を上げながらプールに入っていました。満面の笑顔でバタ足、大きな水しぶきを上げ楽しんでいました。はじめはプールに入るのを嫌がり足だけ水につかっていた利用者様も、回数を重ねるうちにプールに入るようになり、気持ちよさそう表情を浮かべていました。[流しそうめん]流しそうめんは暑い日のおやつの時間に実施しました。雨どいと椅子を使い流しそうめん台を作り、そうめんの他にトマトやサクランボなども流して楽しみました。利用者の皆様に流れてくるものを箸でとるか、お玉ですくうか選んでもらいました。ほとんどの方はお玉を選びましたが「お箸でとりたい」という勇敢な挑戦者もいました。皆さん、真剣な表情で流れてくるものを追い、上手くすくえた際には、にこにこと誇らしげに職員に見せてくれました。[花火鑑賞会]また、そろそろ夏の終わりが感じられるようになった８月下旬、夕食後に花火鑑賞会を行いました。噴出型の花火と打ち上げ花火でスタート！打ち上げ花火は想像以上に大きな音がし、跳びあがって驚いている方もいました。施設長お手製のカボチャコロッケを食べながらみんなで鑑賞しました。花火が上がる度に声を上げたり拍手をする人もいました。みんなで短い夏の終わりを楽しみました。手持ち花火では、花火が好きな方が何本もやりたがったり、にこにこしながら花火を持っていました。怖がって花火を持った職員の腕を持つ方もあり、利用者様の反応は分かれましたが、外に出て花火をするという非日常的な雰囲気を楽しんでいただけたのではないかと思います。短い夏の終わりを楽しみ、今年も大滝わらしべ園の夏を満喫することができました。

８月調理実習

（上手に焼けるかな？）

（おいしーい！）

「6 月のフルーチェ」「7 月のバター作り」に続いて８月は「アイスのせフレンチトースト」を作りました。この活動は２日かかりの取り組みとなりました。１日目にアイスを作りです。利用者の皆さんはアイスを作ると聞くと、とてもテンションが上がり！積極的に作業してくれました。アイスづくりでおこなった“バナナをつぶす”感触が面白かったのか、みんなにこにこ顔でした。そして２日目の午前中は「フレンチトーストの仕込み」です。大滝わらしべ園の利用者の皆さんはパン好きの方が多く、まさに興味津々の様子！パンをキッチンはさみで切ったり、卵液を混ぜたりしてくれました。その日、お昼ご飯を食べた後、いよいよフレンチトーストを焼く時間です。職員が卵液に浸した食パンをホットプレートに並べ、利用者様にフライ返しでひっくり返してもらいました。１人ずつ順番にひっくり返してもらったのですが、職員が手伝わなくても一人で上手にひっくり返せる利用者様も多く、職員はその技術に驚かされました。歓声も上がりました。この作業ができない方もフレンチトーストが焼けていく様子を見て、終始、身体を揺らしたり声を出して笑ったりしていました。そして待ちに待ったおやつの時間。フレンチトーストに前日に作ったアイスをのせて食べました。１人-食パン１枚分の量と、かなりボリュームがあったのですが、皆さん黙々と食べ、あっという間に完食されてました。利用者様に「おいしいですか？」と聞くとほっぺに手を当て「おいしい」のポーズをしてくれました。これからも利用者様が楽しめるよう調理実習の計画を考えたいと思っています。

今後の予定

10 月　ハロウィンパーティー、11 月　焼き芋作り、12 月　クリスマス会

浦河だより

浦河わらしべ園

〒057-0171
浦河郡浦河町西舎 124-1
℡　0146-28-1801
FAX 0146-28-1991
Mail　urakawa-warashibe@deluxe.ocn.ne.jp

浦河夏のイベント＆ものまねショー

（カラオケ大会♬）

６月に中庭にて恒例となった BBQ（バーベキュー）を行いました。人気の「鱒のちゃんちゃん焼き」をはじめ「三種のおにぎり」や「ジンギスカン」等利用者様のリクエストにあったものをたくさん準備しました。今年のデザートはなんと！4 種類のケーキでした。皆さん、好きなのを選んでお腹いっぱいのご様子でした。これも恒例となった食後の「カラオケ大会」も実施しました。お部屋での練習を経て美声を響かせる人、デュエットをする人、ほかの方の歌に聞き入る人などなど、カラオケの楽しみ方はそれぞれです。

７月は昨年に引き続き“何ン田研二のものまねショー”を開催しました。美川憲一のものまねから始まり、松山千春、井上陽水、最後に沢田研二のものまね披露が続きます。出張出前カーのドアが開き、美川憲一さんのものまねをしながらステージに現れた何ン田研二さんに大歓声が上がりました。みんなの知っている曲が多く手拍子！合いの手！一緒に歌ったり！外の暑さに負けないくらいの熱気に包まれてました。今年は帯広在住の歌手、春日ゆうじさんが登場し「ブルーシャトウ」や「星降る街角」「故郷の大地よ」を披露しました。出演者の２人がステージから飛び出し、（アルコール消毒しながら）握手を交わし「使えないお金！」「折りたたみのウチワ！」など冗談を交えながら記念の品を配ってくれました。

（お越し頂きありがとうございました！）

イチゴ狩り＆スイカ割り

（大きなイチゴ！）

浦河町の福田農園様にご協力いただき「イチゴ狩り」を行いました。全員で一度に行くことは困難ですから、数日に分かれて、午前・午後の２グループで行いました。農園では、直接イチゴを摘んでお口へパクリ！甘くて美味しいイチゴを食べながら「自分で摘むとなお美味しくなるね」と満面の笑顔で話しながら楽しみました。

８月には午後のひと時、夏限定「青空喫茶」を開催しました。前日までの雨が、嘘のように晴天にになり、中庭にテントを張り青空喫茶の開催です。特別メニューとして“抹茶ラテとカステラのセット”を用意しました。アイスを食べたりジュースを飲んだり楽しいひと時となりました。喫茶の横では同時にスイカ割りも行いました。「スイカを割る人」それを「応援する人」に分かれました。皮が少し硬くなかなか割れないハプニングもありましたが、割る担当となった方は一生懸命叩いてくれました。「応援する人」はそれを楽しそうにテントの中から眺め、夏らしい１日でした。

（スイカ割れるかな？）

この人紹介／日下（くさか）　学（まなぶ）さん

（2 月 27 日生）趣味は木工・工作。食べることが大好きで、特に魚が好きです。またスケッチブックに絵を描いています。記憶を辿りながら風景や職員さんの似顔絵を描いています。毎日の楽しみはいろいろあります。園内の行事やレクの時間はとても楽しいです。これからやってみたいことは旅行です。苫小牧に買い物に行ったり、家族に会いに行きたいです。今のコロナ感染症が早く落ち着いていろいろなことができるよう、もう少し頑張りましょう。

今後の予定

（施設行事）レクリエーションとして①「ハロウィンレク」の準備をはじめました。毎年、趣向を凝らしてきたので利用者様も楽しみにしています。②「厨房寿司バイキング」これからメニューを決めます。昨年の人気ネタと今年の目玉ネタを厨房スタッフと検討中です。③12 月行事はこれから具体化させますが、話し合いを重ね、出し物や食事のメニューなど工夫して。昨年より楽しめる行事になるよう担当職員を中心に考えます。

（職員研修）これまで令和３年度は「新型コロナウイルス感染症対策研修」「吐しゃ物等感染症対策研修」「令和３年度事業説明研修」など多数の研修を行ってきました。今後は「事故防止研修」「虐待防止研修」など職員の知識を深める研修を行う予定です。

札幌わらしべ園
苗穂事業所

苗穂事業所
〒065-0043
札幌市東区苗穂町３丁目 2-35
℡　011-776-7981
FAX 011-776-7982
Mail　naebojimu@hotmail.com

（5，7，5 になっているかな？）

新しい活動！「一日一句／俳句」

苗穂事業所の新しい活動として「一日一句/俳句」をはじめました。「今日は何の日？」スタートは季節や暦、出来事をみんなで確認します。「今日は何の日」のテーマで、まず一句！一日一句をはじめたころは、皆さん５・７・５の文字数で言葉を考えることも大苦戦でした。毎日の活動でコツ？を理解されたのでしょう、今では５・７・５のリズムに合わせて、全員が短時間で一句できるようになりました。なんと１つのテーマで二句作ってつくる方もいます。皆さん、句を考えている時間は真剣そのもの。指を折って字数を調整しながら、そして、中にはダジャレや笑いを入れた面白い句を考える方もいます。それぞれの豊かな個性を感じる活動です。もしかすると、これも流行の“アール・ぶりゅっと”？

毎回、職員も加わり、一緒に一句考えます。ある職員からは「とても良い頭の体操」との声があります。利用者様より真剣になって考える職員もちらほら？

活動の最後に、太鼓の「ド・ドン！」の後に続いて自作の句を大きな声で読み上げます。全員がとてもなごやかな雰囲気です。他の方の句を楽しんで、一句読み上げた後に「おおー！」、「いいねー！」、「素晴らしい！」と声が上がります。もちろん時には笑いも…。今では毎日の習慣となった俳句作りに「今日の俳句のテーマは？」と自ら尋ねてくれる方もいます。毎日の活動で、できばえ（句のクオリティー）が良くなり、素敵な作品が完成しています。今後の目標として「テーマ」に加えて「季語」を組み合わせて、本格的な俳句を作りたいとみんなで話しています。どんどんチャレンジ！利用者様の頭の体操、そして利用者様の可能性やを広げられる取り組みとして、今後も素敵な俳句を作っていきたいと思います。

（うちわをもって盆踊り♬）

（8 月誕生日のお二人とみんなで記念撮影！）

ズンドコ！ずんどこ！盆踊り

外出もできず、自粛せざるを得ない毎日が続いています。８月には、せめて「お盆らしさ」を味わおうと、事業所内で「盆踊り」を行いました。盆踊りの曲は利用者の皆さんが大好きな「きよしのズンドコ節」です。レッツ・ダンシング！曲に合わせてうちわを持ち、太鼓の音に合わせてみんなで踊りました。リズムに乗って楽しく体を動かし、運動不足を解消！笑顔あふれる時間となりました。

わらりんぴっく 2021　準備進めています！

苗穂事業所ではオリンピックならぬ「わらりんぴっく 2021」の開催を予定しています。わらりんぴっく 2021 のロゴや金メダルなど利用者の皆様で手作りしています。さて、注目の“ワラパラ競技”は①バスケット競技に見たてた「ボール回しのタイムアタック」②水泳競技に見たてた「エアー水泳万歩計競争」などなど、みんなで楽しめる内容競技を予定しています。様子を次号でお伝えしたいと思います。

札幌わらしべ園
厚別・東区事業所

厚別事業所
〒004-0062
札幌市厚別区厚別西２条２丁目 1-23
TEL　011-376-0106
FAX 011-376-0140
Mail sawarasibe@cotton.ocn.ne.jp

東区事業所
〒065-0042
札幌市東区本町２条６丁目 4-1
TEL　011-783-0606（１階）
　　011-790-8130（２階）
FAX 011-790-6572（１・２階共通）
Mail　sawarasibe@cyber.ocn.ne.jp（１階）
　　Whshuurou01@yahoo.co.jp（２階）

夏野菜の収穫＆秋の活動に向けて

利用者様・職員の予防接種が進みはじめていますが、未だ外出や行事の自粛・縮小が続いています。自粛期間が一年半以上も続くと利用者様はもちろん、実は職員にも見えないストレスがたまっているのかも知れません。そんな中、厚別事業所では春に植えた作物が実りはじめました。夏から「収穫作業」が続いています。初夏の苺収穫から始まり、きゅうりやトマト、ナス、枝豆、とうきびと夏野菜がたくさんとれました。収穫した野菜はとても新鮮です。また自分たちで育てた野菜は特別に美味しくて、日々の草取りの苦労を忘れます。かぼちゃも数個実りました。今は、ハロウィンに飾るジャック・オー・ランタンなどの装飾品を作りながら秋の訪れを感じてます。外出自粛対応で活動を縮小しながらとなりましたが、皆で楽しめる活動を検討して、取り組んでいます。

またこれまで取り組んできた「アート活動」の発表の場として 10 月に開催される北海道障害者のアート展に出展する予定です。できれば札幌市民ギャラリーまで展示品の観賞に行きたいところですが、コロナ感染の状況によっては、やはり外出が難しいことも、合わせて想定しています。外出制限など、もどかしい日々が続きますが、一日でも早く明るい光が見えてくることを期待しながら日々の支援に努め、少しでも利用者様のストレスが解消されるような活動ができるように努力します。

（実習生と一緒に収穫しています）

（川下公園で涼んでいます）

（避難訓練しています）

公園清掃＆ポスティング

（近くの公園を清掃）

（道新の折り込み作業もやっています）

（広報さっぽろを配っています）

今年の夏は札幌も猛暑どころかまさに「酷暑」となりました。厳しい暑さの中で、東区事業所の就労グループは「公園掃除作業」「フリーペーパー配布作業」「札幌市広報誌ポスティング作業」と外作業も多く、汗をかきながら大忙しとなりました。みんなで暑さ対策と頻繁な休憩、こまめな水分補給など熱中症に中止しながらの作業です。作業中に町内の皆様からいただく「お疲れ様です！」「がんばってね！」のお言葉が、みんなの大きな励みになりました。さらに、利用者ご家族の皆様からも、多くのご支援をいただき、とても感謝しております。本当にありがとうございました。これから秋に向けて、さらに充実した作業活動ができるように職員一同、努力します。

アート・芸術活動

障がいのある人のアート活動が大流行です。アート！テーマや内容はもちろん自由です。東区事業所では現在、みんなで協力して１枚の「絵」の制作に取り組んでいます。折り紙をちぎる人、それを貼り付ける人、貼り付ける位置を指示する人など、参加の形はまちまちです。利用者様の得意な作業を考えて支援するのは職員の役割です。一人で難しいことを協力しながらみんなで取り組むことができるのは、グループ全体で一体感を感じる取り組みです。作品は各自の個性や頑張りがみえるとても特徴のある作品に仕上がっています。事業所内に展示しますので、是非、ご覧ください。

今後の予定

10 月ハロウィン
11 月テイクアウト食事会
12 月クリスマス行事

クローズアップこの活動

～畑・花壇の整備～

苗穂事業所の正面にある畑、花壇では、芝桜や桜、菖蒲、水仙、チューリップなどが植えられています。この花壇では色とりどりの美しい花が咲きます。花の苗のほとんどは、ご近所の皆様から頂いたものです。今年も花を摘んで事業所内に飾りました。花があると人の心が和むものですね。事業所内の雰囲気が大きく変わりました。美しい花を見ながら、花を題材にした活動に取り組むこともあります。「一日一句」の活動にも使えそうです。

今年は初夏から畑・花壇の整備に取り組みました。各利用者様の得意な活動を分担しながら草ぬき・草運び・土ならしをしました。総合指揮・監督者の利用者様もいます。監督さんの指揮のもと、作業が進みます。作業の間のおしゃべりもとても楽しく、よく手が止まってしまうこともありますが、そこはご愛嬌です。作業の際に「すこし土が痩せて、花の成長が遅くなってきたね」という声もあり、来年春には肥料などを使って、土づくりも作業に加わりそうです。これから冬にむかい、雪が積もり、この畑・花壇は高い雪山となります。この活動は来春再開の予定です。

なえぼ俳句

生活介護の一環として作成しました。

奥田　要 作

楓の葉
真っ赤に染まる
人生を

中村　由香里 作

防災は
安全な場所
探そうね

大活躍・鹿よけネット

ここ数年の間に、大滝わらしべ園周辺では鹿が増え、農業被害が深刻になっています。わらしべカボチャ農園でも”鹿よけネット”を設置しなければ農作物が鹿に食べられてしまうようになりました。（鹿よけネットの設置、これも大変な作業です）今年も何とかカボチャの収穫時期になりましたが、夜間、大滝の職員は鹿が群れでカボチャ農園の横を走り抜ける様子を目撃しているそうです。平成 29 年にカボチャの栽培を始めた頃にはネットは必要なかったのですが、年々、鹿が増えているそうです。

通信　グループホーム　シェアハウス

グループホーム　シェアハウス

コロナ禍の工夫

暑い暑い夏でした。夕涼みを兼ねて夏祭りに行きたいところですが、毎年いろんなところで行われていた夏祭りが昨年に続き、軒並み中止です。そこで一工夫！グループホームやシェアハウスで「かき氷」や「綿あめ」を提供しました。特に暑い季節のかき氷に皆さん大喜び、好みのシロップをたっぷりかけて、みんなで頂きました。かき氷を食べながら、オリンピックの話題も弾みました。ただ、今は涼しくなり夏の暑さを懐かしく感じます。

外出の自粛が続く中、ドライブスルーを活用したドライブ外出にも出かけました。好みの食べ物を注文できるのも楽しいのですが、利用者様の中にはドライブが大好きな方もいます。また、皆さん久しぶりに外に出かける！ということが楽しいようです。

今のところ、幸いグループホーム・シェアハウスご利用の皆さんから、コロナ感染者は発生していません。コロナ感染予防と健康管理の大切さについて、改めて実感しています。生活の場の健康管理の柱として栄養バランスに配慮した食事メニューを意識しています。季節の食材や季節を感じるメニューなどの工夫も加えて、健康で楽しいグループホーム・シェアハウスを目指します。

大阪わらしべ会での近況

今回大阪わらしべ会の辻和也理事長より大阪での近況を伺いました。

コロナ禍で外出や旅行など利用者が楽しみにしている行事が未だ実施できない日が続いています。外部の人の施設への入館制限、家族との面会の制限も続いています。大阪では緊急事態宣言とまん延防止等重点措置が繰り返され、職員の行動制限も多くストレスが募ります。今年の夏は暑い日が続きましたから、心身ともに疲れが蓄積されている気がします。

さて、少しワクワクする出会いもありました。村井先生の実践された障害者柔道は、今大阪では少し形を変えて知的障害者の柔道として残っています。数年前から全日本柔道連盟も力を入れ始め、知的障害者柔道の大会を主催してくれるようにまでなりました。村井先生とも交流があり、わらしべ園開設当初にご来園いただき園生を激励していただいた山下泰裕氏が現全柔連会長であることも何かの縁なのかもしれません。

ZOOM でクロアチアの女性指導者に障害者柔道についての話を聞きました。

ワクワクする出会いというのは、柔道関係のつながりで、クロアチアで主に脳性まひ児を対象に障害者柔道を実践している女性指導者と ZOOM でお話しする機会が持てたことです。日本では肢体不自由者に対する障害者柔道はあまり広がりを見せることはなく、村井先生が言っていたリハビリテーションや教育的効果が広く認識されることがなかったことに歯がゆさがありましたが、遠くクロアチアで同じような発想で取り組んでおられる様子を目にして感動しました。コロナが収まれば、交流の機会を作れないものかと夢を見ています。

北海道のみなさまも緊張した日が続いていることと思いますが、もう少し辛抱してがんばってください。

ありがとうございます／草刈ボランティア

夏期、今年も大滝わらしべ園の敷地内の草が一気に伸びました。例年のことですが、好天と定期的な降雨で、今年は特に雑草の成長が早かったようです。見るに見かねた法人監事志斉哲雄様と、本郷町内会役員の宍戸敏克様が 2 週間以上も施設に通いつめ、大滝わらしべ園の園庭の草刈りと植木の剪定をしてくれました。また本郷自治会の自治会長の片川善明様にもお手伝いいただきました。おかげで草ぼうぼうの園庭がすっきりきれいに整備されました。暑い中、ご支援いただき感謝申し上げます。ありがとうございました。

今年のかぼちゃは？

秋の到来・わらしべカボチャの収穫

5 月種まき、6 月の植え付けから大切の育ててきたカボチャの収穫が、今年も終了します。昨年より苗の数を減らし、その分、一つ一つの苗を大切に育てました。昨年同様、大滝区の橋本強様にご支援いただき、新しい品種にも挑戦しました。これから乾燥させ、熟成を待ちます。「今年のカボチャも美味しくできたかな？」「ほくほくカボチャが好きか？甘いカボチャが好きか？」利用者の皆様とカボチャを磨きながら話しています。昨年からコロナ感染に配慮して、収穫作業も 2-3 人の少人数で行っています。早くみんなで収穫できるようになることを願っています。収穫の様子については次号をお楽しみに！カボチャの出来ばえについてもお知らせします。

この本あります！

「世界史の針がまき戻る時」

マルクス・ガブリエル　著

注目のドイツ哲学者が日本の読者のために書いた著書です。コロナ禍の今、マルクスガブリエル氏が提唱する哲学「新しい実在論」が例をあげて分かり易く解説されています。わらしべ会にとって近い国、ハンガリーが古い形の社会のモデルに執着する様子と、彼の主張が重なり、興味を持って読みました。普遍的な道徳観として「人間性の向上」を社会の目標とするべきという意見は世界共通の課題とも感じます。この本あります。

札幌わらしべ園ミニ図書館／村井文庫

お　知　ら　せ

❁　ありがとうございました　❁

順不同にてご紹介

ご寄附・ご寄贈頂きました。

三島　牧場　様　　志斉哲雄　様
平崎　京子　様　　宍戸敏克　様
村井　榮　　様　　片川善明　様
橋本　強志　様

皆様のご支援に感謝申し上げます。

浦河わらしべ園
新しい福祉車両が納車されました

８月 24 日大安の日に赤い羽根募金共同募金様より助成をいただき、福祉車両を 1 台購入しました。とても立派なリフト付き車輌です。同日、「納車式」を行い、浦河町共同募金会会長小泉睦子様より鍵と「この車両を使って楽しく元気に過ごしてください」とのご挨拶を頂戴しました。新しい車輌に利用者様は興味津々！ウキウキで早く乗りたいというご希望が職員に寄せられています。「早くこの車で、色々なところに行きたいね」と話す方もあり、皆さんとても嬉しそうでした。また納車式の後は、場所を西舎神社へ移動して「交通安全祈願」も行いました。

＊行事表＊

	大　滝		浦　河		札幌		法　人	
10 月	未定	ハロウィンパーティー	1 日	開園記念日	2 日	土曜営業日	4 日	大滝南瓜収穫最終日
					9 日	土曜営業日/健康診断		
					19 日	わらりんぴっく（苗穂）	19 日	法人創設者村井正直先生ご命日
			12 日	避難訓練	27 日	ハロウィン（苗穂）		
					31 日	職員勉強会		
			未定	ハロウィンレクリエーション	未定	ハロウィン（東区）		
11 月	未定	焼き芋作り	10 日	厨房すしバイキング	27 日	職員勉強会		
					未定	テイクアウト食事会		
12 月	未定	クリスマス会	中旬	冬行事	4 日	土曜営業日	10 日	法人創設者村井陽子先生ご命日
			31 日	歳忘れ飲酒日	11 日	土曜営業日	未定	監事監査
					21 日	クリスマス会（苗穂）		
					29 日	通所営業日最終日最終日（1 月 4 日通所新年営業開始）	未定	理事会
					未定	クリスマス行事（東区）		
					未定	忘年会		

編集後記

２０２０東京オリンピック、パラリンピックが終わりました。札幌中心部を走り抜けたマラソン競技は東京より高い気温の中で開催されることになり、札幌の夏も暑いことを印象づけることになりました。「酷暑」と「コロナ感染」「オリンピック・パラリンピック」で大騒ぎの夏でしたが、お盆を過ぎると北海道内は急に涼しくなり、９月初旬には秋のトンボが飛び始めました。９月末になると山間部の紅葉が始まり、勝手なもので今では夏の暑さを懐かしく思うようになりました。わらしべ秋の〝大イベント〟カボチャの収穫が終わり、いよいよ冬支度の開始です。今年の冬も昨年同様、降雪が少ないといいのですが。最近コロナウイルスの新規感染者が減少しているようですが、皆様、引き続き感染防止にご留意頂きますよう、お願い申し上げます。

編集職員一同